

鶴岡協立リハビリテーション病院 沿革

- 1984年 リハビリテーションと透析センターとして鶴岡市双葉町に開設（125床）
- 1986年 理学療法、作業療法、言語療法の3部門確立
- 1991年 リハビリ専門医着任
- 1992年 透析センターをセンター病院に移設し156床に増床
介護強化型老人病院となる
- 1993年 県内初の老人デイケア施設認可
- 2001年 現在地に新築移転（回復期リハ病棟開設 1病棟52床）
日本リハビリテーション医学会認定研修施設
- 2004年 摂食嚥下障害の診断治療に本格的に着手
- 2005年 日本医療機能評価機構認定病院となる
- 2006年 大腿骨近位部骨折の地域連携パスに参加
- 2007年 庄内地域の医療機関と介護事業所を対象とした摂食嚥下セミナーを開催
- 2008年 回復期リハ病棟を2病棟104床に拡大
脳卒中の地域連携パスに参加
外来での電子カルテを開始
- 2009年 無料低額診療（社会福祉法に基づく第二種社会福祉事業）を開始
- 2011年 山形県庄内高次脳機能障がい者支援センターを立ち上げ
- 2012年 回復期リハビリテーション病棟で2交代制勤務を導入
- 2014年 回復期リハビリテーション病棟で365日リハビリテーション体制を導入
- 2016年 痙縮に対するボツリヌス療法外来を開始
療養病棟への精神科開業医による診療支援がスタート
- 2017年 電子カルテへの完全移行完了
鶴岡市の介護予防・日常生活支援総合事業の受け入れを開始
リハビリロボット2種（Honda歩行アシスト、ホッツス-MHAL）を導入